

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会に備えて、取組の検討を開始
- ・2020年：2020TDM推進プロジェクトに登録して情報収集を開始

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約6割程度
- オフピーク通勤・・・3つの出社時間帯とし本人の規模と顧客対応を考慮して選択
- 会議等のオンライン化・・・社内外ともにオンライン化
- 計画的な休暇取得の促進・・・有休最大20日/年（※繰り越し20日）、夏季休暇5日/年を付与。積極的な取得を推奨（2020年は通常の年末年始休暇に加え2日間多く取得するよう推奨）
- 書類等の電子化・・・インターネットでやり取りできるシステムに変更（FAXも電子で受取）。オンライン決済のシステムも導入。決済関係もメールで承認

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 発注時期の調整
 - ・東京2020大会により配送遅延の可能性があるので早めの注文を依頼
- 取引先との配送に関する調整
 - ・遅延の可能性のある旨の案内を実施

取組ポイント

- 全社員にノートPCを支給
- 社外との会議や研修は対面とオンラインのハイブリッド
- 社内では一斉配信システムを活用し効率的に書類等を配布

取組ポイント

- 顧客に事前アナウンス
- 配送状況を自社から一斉メールで配信
- 東京2020大会の1か月前、2週間前等、何度もアナウンスすることで顧客の理解を促進

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク・・・2021年11月時点では全社出社、2021年1月より2日/週テレワーク、今後も状況に応じて実施
- オフピーク通勤・・・土曜出勤については、5週に1回交代制だったが、現在は実施していない
- 会議等のオンライン化・・・本社からWeb配信し、Zoomで参加
- 計画的な休暇取得の促進
- 手続きの電子化（社内外問わず）

物の流れ

取引先との配送に関する調整

東京2020大会やコロナ禍により「早めに案内しないと」との意識が取引先にも芽生えてきているため、継続して早めの情報共有を推進

【東京2020大会を振り返って】

- ・無観客でなければ、恐らく東京2020大会期間中は、1～2週間は全員がテレワークになっていたと思う。
- ・東京2020大会やコロナ禍がなければ、自社ではテレワークは実施していなかったと思う。実際に出来ることが分かったので、今後、何かがあれば選択肢の一つになると思う。
- ・「東京2020大会は本当に開催されるのか？」等の疑問の声はあり、スポンサー企業等に開催の確認をしたこともあった。